

Ravel

設計:竹内申一建築設計事務所

自由な場所

竹内申一 | Shinichi Takeuchi

完結しない空間

敷地は、東京近郊のサーフィンで有名な海岸に程近いエリアにある。週末住宅という条件から、開放的で非日常的な楽しさを持った空間が求められていたが、敷地は、住宅地の日常的な風景の中にある。そこで、生活とは全く無関係な土木構造物のようなものが、敷地に無造作に置かれているイメージからスタートした。海岸のテラポットに、さまざまな生き物がそれぞれの場所をつくりながら棲み付くように、この空間の住まい手が、構造物を手掛かりとして思い思いに居場所をつくり、空間と行為を固定することなく、自由に環

境や世界と結び付いていられる場所をつくりたいと考えたためである。

環境に呼応する構造物

土木構造物のような質を実現するには、建築的な分節や表現によらない空間を、即物的につくり出すのがふさわしいと思われた。敷地は、斜面を造成してつくられており、ひな壇造成された擁壁の高さは2mである。この擁壁の高さや質感は、この場所のコンテキストを即物的に示しているように感じられた。そこで、この擁壁と呼応するスケールと質感を持つ帯状の構造物によって、建物全体を構成することとした。

自然の岩場のように

帯状の壁ピースは、平面と断面それぞれの方向にずらしながら、イゲタ状に組み合わせられる。すると、たくさんの“ヒダ”と“スキマ”を

持った空間が出来上がる。ヒダ状の構造物がつくり出すさまざまな見え隠れは、住宅という限られた空間の中に、変化に富んだシーケンスと場所を生み出している。また、あらゆる方向のスキマから入り込んでくる風景や光は、人の動きや時間によって刻一刻と変化し、“方位”や“内部と外部”といったヒエラルキーを感じさせない拡がりがあり、建物全体にもたらされる。形や構成ではなく、快適さや楽しさといった感覚だけが印象として残り、訪れるたびに新しい発見ができる楽しさを持った、自然の岩場のような空間を目指した。

たけうちしんいち——建築家/1968年生まれ。
1990年、東京藝術大学美術学部建築科卒業。
1992年、同大学大学院修士課程修了。
1993-2004年、伊東豊雄建築設計事務所。
2005年、竹内申一建築設計事務所設立。
現在、東海大学・日本大学非常勤講師。
主な作品:POROUS[2006]、S house[2008]など。

1—リビング1からダイニング2を見る | 2—リビング2 | 3—浴室からテラス2を見る:開放性と抽象性を持たせるため、純粋な白色のタイルと浴槽が使用されている | 4—1階トイレ | 5—北東面外観

